

「生活期脳卒中患者に対する異常歩行パターン改善を目的 とした歩行支援ロボットを用いた歩行練習に関する後方視 的調査研究」に対するご協力のお願い

研究責任者 川上 途行
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) リハビリテーション医学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2017年4月から2027年3月までに、当院で治療を受けた際の評価として歩行動作分析を行った方が対象となります。

なお、脳卒中の既往がない方、15歳未満の方は、本研究の対象ではありません。

2 研究課題名

承認番号 20241195

研究課題名 生活期脳卒中患者に対する異常歩行パターン改善を目的とした歩行支援ロボットを用いた歩行練習に関する後方視的調査研究

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学医学部

リハビリテーション医学教室

研究責任者

准教授 川上途行

4 本研究の目的、方法

生活期脳卒中患者に対する異常歩行パターンの改善を目的とした歩行支援ロボットを用いた歩行

練習の治療効果を、通常の歩行リハビリテーションの治療効果との比較をおこなうとともに、臨床評価や歩行分析結果との関連性を明らかにすることです。

本研究の方法は、これまで治療前後の効果判定として用いられてきた三次元動作解析システムによる歩行分析結果を収集し、解析を実施します。また、下肢の臨床評価（運動麻痺の程度を評価するものや、痙縮の程度を評価するもの）の評価結果を電子カルテより収集し、それらと治療効果との関係性を調査します。

5 協力をお願いする内容

歩行障害に対する集中的な治療や、ボツリヌス療法の実施前後に評価として実施した歩行分析結果を収集します。また、同時期に実施した臨床評価である **Fugl-Meyer Assessment-Lower Extremity**（運動麻痺の程度）、**Modified Ashworth Scale**（痙縮の程度）、**Gait Assessment and Intervention Tool**(異常歩行の程度)、**快適・最大歩行速度**、**6 分間歩行距離**（持久力の程度）、**Trunk Impairment Scale**(体幹機能の程度)、**Manual Muscle Test**(筋力の程度)、**Range of Motion**（関節の角度）、**Stroke Impairment Assessment Scale**（運動麻痺、感覚障害の程度）においても情報を収集します。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2027 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

川上 途行（かわかみ みちゆき）／ 准教授
慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室
TEL : 03-5363-3833(9:00～17:00)
FAX : 03-3225-6014
E-メールアドレス : keiorehab@gmail.com